

問題一 次の文章を読み、後の問いに答えよ。

ふと何かに脅かされたような心もちがして、思わずあたりを見まわすと、何時の間にか例の小娘が、向う側から席を私の隣へ移して、頻りに窓を開けようとしている。(中略) あの鞆だらけの頬はいよいよ赤くなって、時々はなをすすりこむ音が、小さな息の切れる声と一しよに、せわしく耳へはいつて来る。これはもちろん私にも、幾分ながら同情を引くに足るものには相違なかった。しかし汽車が今まさにトンネルの口へさしかかろうとしていることは、暮色の中に枯草ばかり明るい両側の山腹が、間近く窓側に迫って来たのでも、すぐに合点の行くことであつた。にもかかわらずこの小娘は、わざわざしめてある窓の戸を下ろそうとする、――その理由が私には呑みこめなかつた。いや、それが私には、単にこの小娘の気まぐれだとしか考えられなかつた。だから私は腹の底に依然として険しい感情を蓄えながら、あの霜焼けの手が(中略)悪戦苦闘する容子を、まるでそれが永久に成功しないことでも祈るような冷酷な眼で眺めていた。すると間もなく凄まじい音をはためかせて、汽車がトンネルへなだれこむと同時に、小娘の開けようとした硝子戸は、とうとうぱたりと下へ落ちた。そうしてその四角な穴の中から、煤を溶かしたようなどす黒い空気が、にわかには息苦しい煙になって、もうもうと車内へ漲り出した。元来のどを害していた私は、ハンケチを顔に当てる暇さえなく、この煙を満面に浴びせられたおかげで、ほとんど息もつけないほど咳きこまなければならなかつた。が、小娘は私に頓着する気色も見えず、窓から外へ首をのびして、闇を吹く風に銀杏返しぎんぎょうがへしの鬢の毛をそよがせながら、じつと汽車の進む方向を見やつてゐる。その姿を煤煙と電燈の光との間に眺めた時、もう窓の外が見える明るくなって、そこから土の匂や枯草の匂や水の匂が冷やかに流れこんで来なかつたなら、ようやく咳きやんだ私は、この見知らない小娘を頭ごなしに叱りつけてでも、また元の通り窓の戸をしめさせたのに相違なかつたのである。

しかし汽車はその時分には、もう安々とトンネルをすべりぬけて、枯草の山と山との間に挟まれた、ある貧しい町はずれの踏切りに通りかかつていた。踏切りの近くには、いずれも見すばらしい藁屋根や瓦屋根がごみごみと狭苦しく建てこんで、踏切り番が振るのであろう、ただ一旒のうす白い旗がものうげに暮色をゆすつていた。やつとトンネルを出たと思う――その時その蕭索とした踏切りの柵の向うに、私は頬の赤い三人の男の子が、目白押しに並んで立っているのを見た。彼等は皆、この曇天に押しすくめられたかと思うほど、そろって背が低かつた。そうしてこの町はずれの陰惨たる風物と同じような色の着物を着ていた。それが汽車の通るのを仰ぎ見ながら、一せいに手を挙げるが早いか、いたいけな喉を高く反らせて、何とも意味の分からない喊声を一生懸命に迸らせた。するとその瞬間である。窓から半身を乗り出していた例の娘が、あの霜焼けの手をつとのばして、勢いよく左右に振つたと思うと、たちまち心も躍らずばかり暖かな日の色に染まつている蜜柑がおよそ五つ六つ、汽車を見送つた子供たちの上へばらばらと空から降つて来た。私は思わず息を呑んだ。そうして刹那にイツサイを了解した。小娘は、恐らくはこれから奉公先へ赴こうとしている小娘は、その懐に蔵していた幾顆の蜜柑を窓から投げ、わざわざ踏切りまで見送りに来た弟たちの労にムクいたのである。

暮色を帯びた町はずれの踏切りと、小鳥のように声を挙げた三人の子供たちと、そうしてその上に乱落する鮮やかな蜜柑の色と――すべては汽車の窓の外に、瞬く暇もなく通り過ぎた。が、私の心の上には、切ない程はつきりと、この光景が焼きつけられた。そうしてそこから、ある得体の知れない朗らかな心もちが湧き上がって来るのを意識した。私は昂然と頭を挙げて、まるで別人を見るようにあの小娘を注視した。小娘は何時かもう私の前の席に返つて、相変らず鞆だらけの頬を萌黄色の毛糸の襟巻に埋めながら、大きな風呂敷包みを抱えた手に、しっかりと三等切符を握っている。……

私はこの時始めて、言いようのない疲労と倦怠とを、そうしてまた不可解な、下等な、タイクツな人生をわずかに忘れることが出来たのである。

(芥川龍之介「蜜柑」より)

①*銀杏返し…日本髪的一种。*鬢…頭の左右の側面の髪。*一旒…「旒」は旗等を数える語。ひと流れ。*幾顆…「顆」は果物等を数える語。数個。*三等切符…当時は汽車に特等車から三等車までの区分があつた。

問一 傍線部①⑨⑫の品詞名を答えよ。

問二 傍線部②③④⑥⑧⑩⑬のカタカナを漢字に改めよ。

問三 傍線部⑦⑩の意味を端的に分かりやすく説明せよ。

問四 傍線部⑤は才之助自らを指す言葉でもあるが、具体的に説明した次の文の空欄を問題文中の語で補え。
〔菊作り〕を【A】にとどめ、【B】を得る手段には決してしない。

問五 才之助はどのような生活を送っているのか。「遺産」「貧乏」「趣味」「菊」という言葉を必ず使い、三十五字以内で説明せよ。

問題三 次の文章を読み、後の問に答えよ。

A すぐれた【i】力を持った漫画家が街路や電車の中で十人十色の世相を見る時には、複雑な個体が分析されて、その中にある型の普遍的要素がおのずから見いだされる。そしてその要素だけを【ii】し、それを主として表現するために最も有効な手段を選ぶであろう。その表現の方法は「術」であるかもしれないが、この要素をつかみ出す方法は「学」の方法にきわめて近いものである。

B 科学上の業績は単に【iii】によってのみ得られるものと考えるのは、ありふれた、しかし大なる誤謬である。少なくとも、すぐれた科学者が法則を発見したりする場合には【iv】の力を借りることははなはだ多い。そういう場合には論理的な証明や分析はむしろ後から付加されるようなものである。

C 漫画が実物に似ていないにかかわらず真の表現であるということは、科学上の真というものに対する多数の人々の誤解をとくために適切な例であるように見える。漫画が実物と似ない点においてまさに実物自身よりも実物に似るといふパラドシカルな言明はそのまま科学上の知識に適用することができる。

D ただ科学は主として物質界の現象に関係しているために、換言すれば人間の能知と切り離された所知者自身の間の交渉に關しているために、科学上の法則は科学者の【v】と切り離され、したがってその表現は單義的普遍的なものになっている。これに反して漫画家の対象は人間に關係したものであるために、このような分離が困難になり、表現は十人十種になって作者の個性の香が高くなるのは止むを得ない。

E 漫画の目的とするところはやはり一種の真である。必ずしも直截な狭義の美ではない。ただそれが真であることによつて、そこに間接な広義の美が現れるように思う。科学の目的もただ「真」である。そして科学者にとってはそれが同時に「美」であり得る。

F また一方において漫画家の抽象は必ずしも直感のみによるとは考えられない。たとい無意識にしる、直感で得た【vi】をたどつて確かなある物を把握するまでの道筋は確かに一種の分析である。それでこれらの点における両者の精神作用の差異はあつても僅少なものである。
(寺田寅彦「漫画と科学」より)

問一 右の文章のC～Fの段落は順序が乱れている。正しい順序になるよう、並べかえよ。答は符号で。(A・Bは正しい順序になっている)

問二 空欄【i】～【vi】に適した語を次の中から選び、符号で答えよ。

①観察 ②抽象 ③暗示 ④個性 ⑤直感 ⑥分析

問三 傍線部A・イと対して用いられている言葉をそれぞれの段落の中から見つけて書き抜け。(つまり、アと相対する語はD段落の中に、イと相対する語はF段落の中にある)

- 問四 右の文章・「漫画と科学」は、何を述べようとしているのか。次の中から適したものを選び、符号で答えよ。
- A 科学の研究手法や目的について、漫画と比較しながら一般的な見解を覆している。
 - B 漫画と科学の対立や相違点を面白く説明している。
 - C 漫画家と科学者の精神作用や目的が非常に似ていることを述べている。
 - D 漫画家や科学者のあるべき姿を教えると同時に、その共通性を述べている。